
幸せ

夜月

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幸せ

【Nコード】

N1136K

【作者名】

夜月

【あらすじ】

ある人の歌を拙く足りない頭で文章化してみました。

もしその歌を知っていたなら歌を聞きながらご覧いただけると嬉しいです

自分の歌詞解釈なので「ここが違う!」って人は感想にて文句をどうぞ。

白く、冷たい森の中。

二人の男女が寄り添い歩く。

歩みを止め彼が指を指す

指の先には、一本の細い木が。

その上には月が輝き、二人の頬を照らす。

「今宵は月が綺麗だ」

「ええ、綺麗ね。とても綺麗。」

次々と浮かんでくる思い出

淡い想いは叶わぬものとなる。目の前の美しい景色が段々と揺らめく。

それは涙だった。

懐かしく、もう戻ることの出来ないあの日々を振り返っていたら涙が自然と出ていた

「どうしたの。大丈夫？」

私の目に溜まった涙に気づいた彼は私に問い掛けた

「ええ。平気よ。私は、大丈夫」

「そう……」淡く頬を染め、私達はぽけつの中で手を結ぶ。繋いだ手から、思い出や温もり、愛しさが溢れてくる。

寒空のなか、吐息は牡丹雪に溶けていく。

思いは募るばかりで、行き場のない”それ”は胸に積もる。

「それでは、行こうか」

「ええ——」

時代は二人が並んで歩くことさえ許さなかった。

だからせめて——

せめて、湖に薄く張った氷の下で永久に寄り添っていたいと
そう願った。

私達は簡素な船に乗り共に頷きあつた。

ゆつくりと、舟がほとりから離れていく。

水面には夜空の星が光り、月が波に揺らめく。

無数の星の上を、船が通る

それはとても幻想的で、天の川を渡っている様に思えた。

星空を見送るたびに、景色が揺らぐ。

彼に悟られまいと、背を向けて涙をこらえるばかり。

思えば、叶わない恋だった。

誰からも認められない愛だった。

だからこの想いを閉じ込めてしまいたくて。

だから。

雪の降るあの日、細い木の下で約束をした。

「ごらん、山紫水明だ」

帽子を目深にかぶった彼が言う。
目の前には綺麗な景色

「そうね。本当に…… 本当に、綺麗……」

涙が、ぽろりぽろりと流れ出す

どうしてだろう。

どうして私たちの絆は、恋は、許されないのだろう。

生まれが違っただけで。

身分が違っただけで。

何故、時の流れは残酷なものとなるのだろうか

「ねえ、ここがいいね。ここなら、安心して黄泉へいけるはずだ」
「……そうね」

彼が静けさに満ちた中で私に言った
それと共に木々に積もった雪が、音とともに落ちた。

雪は降り続く。

指ですくうと、ふわりと溶けて流れた。

小さな波に、流れて消える。

ふと、温もりに体を包まれた。

「迷って、いるの？」

「……あなたは？」

抱かれながら問う。

しばらく無言が続き、やがて温もりが震えだした。

泣いていた。

一度も泣いたことのない彼が、泣いていた

はじめて見た、彼の涙。

強がりな、彼の。

「……私、幸せだった」頷き、頬を寄せ合う

「幸せだったの。本当に、幸せだったのよ。だからね、数えていたの、あなたとの幸せを。だけど……数えていたら、指が足りなくなつて……」

「——っ」

泣き崩れる頬の隙間を、涙が埋めた。

湖のほとりで、一際綺麗な星が揺れる

星が消えては光り、光っては消える。

その度に水面に移る二人の影が、酷く美しく澄んでいた。

時が流れ、星が回る。

彼の帽子が飛んでいった。

星の光の飛沫を上げて、二人の影が消える。

波紋に月や星が揺れ、水面に映った空へ舟が昇る。

小さな、小さな星が集まった川を。

航跡の泡はおぼろげに消えていく。

まるで彼女達のように。薄い氷に鏤められた星が、二人の影を消してゆく。

二人を沈めたのは、剥がれ落ちた栄華の名残。

仄暗い水底へ、しかし永久に添い遂げることが出来る水底へ、幸せとともに沈んでいく。あの日見た景色、思い出、そして想いを心に抱き、そして思う

あなたに会えて、よかった。と――

（後書き）

最初に書きましたがある歌の歌詞を文章化した作品です

時代的には第二次世界大戦の直後とか直前

とりあえず身分による差が激しい時期の話だと解釈して書きました

服装設定

「彼」は良い所の男性なので良い服装です。文中のぽけつとは彼の服の物です。

「彼女」は着物です。

着物というか袴のイメージです。

この歌を作った人の歌詞には社会批判的な部分があり、この歌では身分による差別 を書いています。

身分の違いにより結ばれることのない彼と彼女。
日本版ロミジュリですね。

一応既存の曲を解釈し、文章化したので二次創作ジャンルにしてますが不満の方は感想にてどうぞ

では、感想お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1136k/>

幸せ

2010年10月11日23時28分発行